



写真：第58回中・四国地区仏教婦人会大会（10月8日くにびきメッセで開催。4頁～5頁に記事）

山陰

編集 御同朋の社会をめざす運動
 発行 山陰教区委員会
 〒690-0001 松江市大正町四三ノ一
 本願寺山陰教堂
 TEL 〇八五二 21 四七四七
 FAX 〇八五二 27 八三五一
 発行者 野川大卓

御同朋の社会をめざす運動（実践運動）

山陰教区教務所長 野川大卓

私たち山陰教区の実践運動教区委員会では、この運動を円滑に推進するため三部会（同朋・社会部会、伝道・広報部会、寺院活動支援部会）を設置し推進しています。

同朋・社会部会では、前号で既報の通り、ハラスメントとは何かについて研修しました。それは自分自身がハラスメントをする可能性があることを学ぶ研修でした。

次に伝道・広報部会では、これも前号で既報の通り、教区初めての試みとして、教区内僧侶を対象とした、勤式研修会を開催しました。それはご門徒の問いに答えられる「基礎知識」を身につける研修でした。また、これとは別に、僧侶研修会を開催しました。お釈迦さまと仏弟子の具体的な会話の中で、仏教の基本を学び深める研修でした。

最後に寺院活動支援部会では、各所属団体が連区大会・研修会、教区内地区別研修会を行っています。連区大会では、仏婦が第五十八

回中四国地区仏教婦人会大会を、「そとつながらる ホッがつたわる」結ぶ絆から、広がるご縁へ」(「今」私にできること)をテーマに開催しました。門推は、第四連区門徒推進員実践運動研修会を「門徒推進員と御同朋の社会のめざす運動(実践運動)」をテーマに開催しました。

教区内研修会では、仏教壮年会がブロック毎に開催しました。鳥取Bのテーマは「お寺の可能性に迫る」(これからのお寺は面白い!)。石見Bのテーマは「仏社の組織の拡大と活動の活性化」。出雲Bは「仏社会のありかた」をテーマに、お寺に人が集まりにくい理由(会員が増えない理由)とお寺の理想の姿(〇〇な会にしたい)を考えました。

最後に門徒総代研修会もテーマ「総代と実践運動」として、十一月と十二月に開催したところです。このように、それぞれが「ご縁」を大切にして、末長く実践運動を推進されることを願うばかりです。

山陰教区少年連盟教区指導者研修会

八月二十三日佐波組浄土寺にて山陰教区少年連盟の指導者研修会が行われました。

今回の指導者研修会は室内オリピックを行いました。

昨年度より指導者研修会の方針を改め、指導者研修会とほとけの子どもの集いを一体化させており、今回は子どもたちとともに「室内オリピック」をテーマに研修会を行いました。

室内オリピックということで、開会式では入場行進や、蠟燭を使用した聖火ランナーの入場などを行い、開会式から盛り上がりを見せていました。

室内でできるリレーや、班で知恵を出し合い協力しあつて勝ち残るゲームなど工夫を凝らした様々な競技や、ぶんぶんごまや竹トンボなど、昔からあるおもちゃを子どもたちが自分で作り、その作ったおもちゃを



使用して挑む競技などがあり、ゲームを開始した当初は、緊張気味な表情をしていた子どもたちも、ゲームを進めていき自分たちのチームの得点が増えてゆ

くにつれ、自然に笑顔に変わっていく姿を見ることができました。

今回の研修会でも子どもたちの色々な表情を見ることができ、楽しい研修会を行えたと思います。来年度は参加者増加をめざし、さらに楽しい指導者研修会にしたいです。

ブロック研修会を終えて

仏教壮年会連盟理事長 泉原省三

組織がなければ動けない、朋友の輪が広がらない。私は理事長就任以来仏社の組織拡充を最重要課題と位置づけて取り組んでまいりました。ブロック別の研修会は総会研修会とは違って、本音で語れる朋友の輪が広がる最高の研修会だと思っております。鳥取会場では「お寺の可能性に迫る、これからはお寺が面白い」

出雲会場は、「仏社のありかた」石見では「仏社組織の拡大と活動の活性化」をそれぞれテーマとして研修会を開催しました。講師先生から問題提起を受けて班別分散会で議論を深めていただきました。私も各会場、各班をのぞかせていただきましたが少人数だから話せる、本音で語れる研修を嬉しく思いました。ご承知と思いますが今年度は組織拡充に向け

試みの事業計画を掲げました。それは組単位で組織拡充につながる取組をしていたいただいた組に対して補助を行うものです。厳しい中から捻出した予算ですので有効に活用され拡充に結びつけて頂きたいと思っております。同じ気持ちのある人がお寺に集

まりお茶を飲みながら本音を語ることから始めるのが仏社の第一歩ではないでしょうか。僧侶の難しい話だけが法話ではありません。ご縁のある方の話を聞いたり会員が悩みを語り、それを聞いてくれる友(朋)がいればホッとできると思います。ブ

ロック研修会に参加されホッと心を癒していたいた方も多いと思えます。組織拡充には住職様方のご協力が必要ではありません。私は昨年と今年度の二年間で仏社組織の結成率が低い石見部の組長様を訪ね組織拡充の協力をお願いをさせてもらいました。アポなしの突然訪問したことを

お許し頂きたいと存じます。私が理事長就任以来単位仏社は少しずつ増えて現在では教区内に九十五単位となりまして。関係のすべての皆様に感謝申し上げます。 合掌



山陰教区僧侶研修会

期日：二〇三三(平成二十五)年九月四日(水)・五日(木)

場所：出雲市民会館 三〇二研修室
講師：内藤昭文先生(本願寺派司教)

講題：「仏弟子に学ぶ」
参加者：四日(五十五名)五日(五十八名)

「仏伝」に聞く(仏弟子に学ぶ)と題して、お釈迦様の生涯、浄土三部經の仏弟子たち、仏教とは、出家の躡躑―異解への配慮―、初転法輪―機の問題―、中道―二十億耳―などをわかりやすく講義頂きましたが、僧侶としてのあり方などもあらためて教導を頂きました。

山陰教区勤式講習会

期日：二〇三三(平成二十五)年九月五日(木)

場所：出雲市民会館 三〇二研修室
講師：能美頭之先生(山陰教区勤式指導員)

講題：「基本的作法と莊嚴の源流」
参加者：五十八名

・正座・合掌・念珠・礼拝・焼香・散華・行道・莊嚴・打敷・点火・点燭・供華・供香・供飯など、分かったつもりで意外に知らない事柄について、歴史的背景などを交えて詳しく教導を頂きました。

公聴会開催

期 日：二〇一三(平成二十五)年九月十日(火) 一時～二時五十五分

場 所：本願寺山陰教堂 教化センター 研修室

宗派出向者：園城義孝(総長)

・葛谷英淳(重点プロジェクト推進室・社会部(災害対策担当)部長)

・佐々木義英(総合研究所 上級研究員)

・寺住晃祐(所務部(文書担当)賛事) 座長：小笠原寧之(山陰教区教区会議長)

参加者：四十七名

・宗会議員・教区会議員・組長・副組長・実施運動教区委員会正副委員長

・実践運動組委員会正副委員長・各団体役職者・住職・衆徒

内 容：(一) 法統継承式について

(二) 御同明の社会をめざす運動(実践運動)について

質 問：ご門主の進退について

築地本願寺の住職就任の有無について。 答：直轄寺院規程第三条に「門主の認証を得て、前門が住職に就任することができ」とあるところから、

流されたうわさであるが、私どももご門主から築地本願寺のご住職に就任されるというようなお言葉を伺ったことはない。ただ、そのようなご意向があった場合の準備は進めてい

る。(総長) 報告：実践運動について

・「ご法義」の過疎にならないように、寺院の報恩講で、スタンプラリーを実施し成果あり。また、門信徒の家庭での報恩講のためリーフレットを作成。

・ご門徒以外も対象として「公開講座」として研修会を行っている。 提 言：離郷門信徒への対応。

・宗門として、転居門徒へのアフターフォロー、所在のネットワーク化をしてもらえないか。

要 望：実践運動について

・組が実践運動として地域社会に出ていく時に、組で運動を行うに際して、「西本願寺」の名前を利用したい。

・浄土真宗の災害支援の在り方を、俊敏且つ大規模に活動できるように検討しては。

・年代別組織教化の再構築。新時代を迎えるにあたり、歴史ある仏婦をも再配分するなどし、少年・青年・壮年・シニアに分ければどうか。

・門推・連研「連研ノートD」時代が変わり、新たな社会問題が出てくる。(災害・医療・介護)グローバルな立場にたつた伝道者の養成を。連帯感のある門徒組織を。

回 答：「連研ノートE」を本年中に発行する予定。

まとめ：総長より、本日の皆様のお話を聞いて、非常に熱意をもって伝道教化にあたっていらっしゃるという



ことを感じたので、このたびのご提言を宗門の実践運動に反映させたいと思います。(園城義孝総長)

本願寺山陰教堂 会館落慶法要

十月二十一日、会館落慶法要をお勤めました。一九七六(昭和五十一)年に本願寺山陰教堂(当時の名称は「本願寺山陰会館」)が建立されたことを記念し、毎年十月に開座しています。

日中法要は宗祖讚仰作法第一種、連夜法要は宗祖讚仰作法第三種(音楽法要)をお勤めいたしました。

松江組内を中心とした御法中、並びに山陰教区雅楽声明の会「雅龍会」の皆様にご出仕戴き、お勤めをさせていただきます。

ご講師は、岡村謙英師(山口教区邦西組照蓮寺)。ご参拝の皆さまと一緒に聴聞させていただきます。

ありがとうございました。



伝統ある京佛具を後世に伝えたい

浄土真宗本願寺派仏具専門店
寺院用 在家用 仏壇 仏具 記念品

株式会社 **古田た佛具製作所**

営業時間/午前9時より午後5時30分 定休日/日・祝日

〒600-8227 京都市下京区七条堀川上ル菱屋町(西本願寺前)
TEL(075)343-2341 FAX(075)343-0836
http://www.furuta-butsugu.jp

JTB 感動のそばに、いつも。

株式会社 **JTB中国四国 松江支店**

〒690-0003
松江市朝日町498-6 松江駅前第一生命ビル2階
TEL 0852-23-6720
FAX 0852-23-7739
営業時間：9:30～17:30(土・日・祝日休業)

教婦人会大会に参加して

サルに行き、会場の広さ
 いきました。前日、リハー
 下さり、見る側にも回っ
 の練習のビデオを撮って
 …又ご院家さんが私たち
 置、引くタイミングなど
 のの違い、カーテンの位
 置、微妙なイントネーショ
 ンでした。言葉使いや、方言
 うちに問題点が見つかり
 して何度も練習していく
 頑張ろうと一致団結。そ
 頑張り

大会の一ヶ月前です。
 總裁さまご臨席のもと三千人以上
 の方の前で…!! 私たちでいいのだろ
 うかと不安で頭がいっぱいになりま
 したが、後戻りは出来ずとにかく練
 習して手作りの良さを出せるように

源左さんの紙芝居は四年前から制
 作にかかりました。今年願正寺佛教
 婦人会発会二十周年を機に舞台も完
 成させて、総会のアトラクションに
 披露しました。その後仏婦の集まり
 の折「松江の今秋の大会に紙芝居を
 してもらえますか?」という教務所
 からのお話があるのを聞き、「いい
 ですよ」と簡単に皆で返事をしまし
 た。この重大さを理解できたのは

鳥取因幡組 願正寺仏婦
 石原陽子

今回このような貴重な機会を頂
 き、今後紙芝居だけが一人歩きしな
 いよう、源左さんとのご縁を大切に
 相続しながら、演じる私たちが聴聞
 を重ね、おみのりを味わい、そのよ
 ろこびを紙芝居に込めて次の世代へ
 伝えていきたいという思いを新たに
 しました。このご縁に遇わせて頂け
 たことに感謝申し上げます。

に驚き、圧倒され、気の引き締まる
 思いでした。当日は出番が来るまで
 の何とも言えない緊張感の中、舞台
 裏でそれぞれがシユミレーションし
 ながら待ちました。いよいよ本番開
 始です。初めは頭の中が真っ白にな
 りながらも少しづつ平常心を取戻
 し、途中途中で笑いを頂けたのが嬉
 しく、「ここは笑える場面なのだ」と
 と気づきました。何とか大きな失敗
 をすることもなく無事やり終え、皆
 でホッと胸をなで下ろした次第でし
 た。



御本山 **近** 用達

株式会社 **川勝法衣店**

フリーダイヤル 0120-075-055
 (600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入
 電話 (075) 371-0367 (代)
 FAX (075) 371-5088

御本山御用達 開明社員

井筒法衣店

代表取締役社長 幾田潤

(〒600-8503) 京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)
 フリーダイヤル TEL 0120-075-720
 フリーダイヤル FAX 0120-075-490

幕章袋式
 徒式衣一
 門徒見念
 珠・帷品
 旗念・帷
 袷袴袍帳
 裳袴袍帳
 袷切布戸
 條衣・敷
 七五黒打

第58回中・四国地区仏

邑智西組 如伝寺仏婦
寺本紀子

去る十月八日(火)松江市、くにびきメッセにおいて標記の大会が開催されました。担当教区仏婦連盟として二年前より、事務局を中心に計画は具体的に動き始めました。

会場が決まり、交通手段の関係などで常任委員、そして地元松江組および

周辺の地域の方々にご苦勞をおかけしました。当日の参加人数は他県から千八百人余り、山陰教区は千七百八人余り。この大会を支えていただいたスタッフの方々は何人おられたことでしょうか……。

会場設営、周辺の駐車場は本当にスムーズでした。資料をはじめとする事務局の行き届いた準備、心に残るいい大会になったと思います。

単位仏婦など一部ですが参加した人の感想を聞きました。

①記念講演がとてもよかったです。

・仏教を新しい感覚で聞け、わかりやすかった。

・本が買いたかったがあまりの人の多さに買えなかった。

・記録がほしい。

②会場が広く、人数が多すぎて、モ

ニターで見られず残念だった。③こんな大勢を遠くから時間と費用をかけて集まるよりも、近くの地域単位でもっと開催できればいい。

④違う県や地区で広い視野で学べる機会は大切だと思う。

その他、これまで参加された大会の思い出などありました。山陰教区担当という比較的大勢が参加できたこの大会について、もっとしっかり話し合い、次につないでいきたいと思えます。

私自身のこれまでの人生を振り返るとき、紆余曲折の中、仏教に導かれ、多くの人に支えられてきたと思います。今、故郷に帰り、仏教婦人会に連なり、改めて先人の方々が全国を網羅するこの組織を育んでくれたその意志を思うと頭の下がる思いがいたします。身近な、温かな同朋の集いを基とする仏婦、一人一人の力は小さくとも、志を共にする教の力は大きなものになります。

仏婦綱領

に端的にまとめられている目標をしっかりと心に刻み心に生ぎ



ることのできる社会を目指し歩んでいきたいと思えます。



親子で読んでほしい
有福の善太郎
好評発売中! 1冊800円(税込)

妙好人有福の善太郎さんのお話が親子で読んでいただける本になりました。寺院様をはじめ、ひろく門徒様、ご家族でお買い求めいただけますようご案内いたします。ご注文は下記の電話かFAXにて承ります。

この善太郎
賢くやわらかい心を持った風土は、多くの人の心を温め、救いをもたらした。その善太郎、魂の言葉をもちてきた人々の善太郎、その名は善太郎。

ハーベスト出版 〒690-0133 松江市東長江町902-59
TEL(0852)36-9059 FAX(0852)36-5889
株式会社谷口印刷 〒690-0133 松江市東長江町902-59

手をあわせ 心あわせて しあわせに

報恩 感謝

ぶつだんの
内田真造商店

・木次・ 下熊谷・ 出雲・
☎0854-42-0266 ☎0854-42-3711 ☎0853-21-3253

青年布教使研修会に参加して

邑智東組高善寺 武田正文

「布教の未来」を模索した二日間でした。今回の研修会は、ご講師の問題提起をもとに各教区の代表者が議論するという話し合い法座の形式でした。講師の木下明水先生は芸能界での活動の後、自坊に帰り、布教活動を行っていただける方です。話術のプロとして、言葉の使い方にとても気を配っておられるとのことで、問題提起のなかでも自然と引き込まれていきました。なにより印象的だったのは、木下先生ご自身がお念仏を喜んでおられる姿でした。自分自身がみ教えを味わい、あくまで阿弥陀さまが主語になるお取次ぎをするべきことを強調しておられました。

話し合い法座では、原稿の作り方や身だしなみ、視線の向け方など、多岐に渡る議論がなされました。寺院活動にも話題はおよび、それぞれの得意分野を活かした活動によって、ご門徒の方々も大変喜んでおられることが紹介されました。話し合いのなかでは「覚悟」という言葉も出てきました



が、まさに僧侶としての「覚悟」がご門徒の喜びにつながっているように感じられました。最近では、仏教やお寺の未来を心配する声も多く聞かれますが、「覚悟」をもった僧侶、布教使さえいれば「布教の未来」も仏教の未来も明るいのではないかと思います。私自身の「覚悟」を問い直す二日間となりました。

第三十七回 全国寺族青年軟式野球大会

平成二十五年十月一日・二日に京都府山城総合運動公園(太陽が丘)にて第三十七回全国寺族青年軟式野球大会が開催されました。今年も台風も多く天候が心配されましたが、大会は両日ともに天候に恵まれました。

今回は二十六チームが参加し、山陰教区寺族野球部の初戦の対戦相手は兵庫教区のBANでした。初戦を五対三で打ち破り、二回戦進出。二回戦目の相手は四州教区でしたが、これも五対一で快勝。山陰教区寺族野球部は二日目の準々決勝に進みました。

二日目の試合は、熊本アマタという強豪チームでした。準決勝進出をかけた試合だけあって、チーム全体が緊張感に包まれていました。しかし残念ながら熊本アマタの勢いに飲まれ、健闘するもこの試合を五対〇で敗れ、山陰教区寺族野球部は準決勝に進むことはできませんでした。

今年も準々決勝で敗退してしまいましたが、来年は今年の経験を活かし、さらにその上を狙っていけると感じました。全国寺族青年軟式野球大会に参加した皆さまをはじめ、関係者の皆様、本当にお疲れ様でした。また来年も頑張りますように!



山陰教区

まことの保育入門講座

十一月二日(土)、鳥取伯耆組本巖寺さまにて、幼稚園・保育園の先生を対象とした二〇一三(平成二十五)年度「山陰教区まことの保育入門講座」を開催しました。美哉幼稚園園長の西元和夫氏より、「体で感じるまことの保育」ボ

ディワークを通して」をテーマに講義をいただきました。講義の後、参加者の皆さんに実際にボディワークを体験いただきました。最後に、各園で歌っている仏教讃歌を全員で歌いました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



お仏壇・仏具は やっぱり京都・・・



SINCE 1830

Support 750

伝統工芸 京仏壇・京仏具

(株) 若林

www.wakabayashi.co.jp

京都本社 / 京都市下京区七条通新町東入

☎(075)371-3131 代 年中無休 〒600-8218

フリーダイヤル ☎0120-37-8585 (各店共通)

東京店・築地店・札幌店・仙台店

近江草津店・福岡(営)・新潟(営)

E-mail info@wakabayashi.co.jp

「蜻蛉」

夕刻、かなかなの響きにスコップを置き、一階が全て水に浸かったお宅を改めて見ました。床下面に溢れていた土砂が大方攫われた、がらんとした一階の片隅に、大きな箱状の物がありません。重みのかたまりが流されなかったそれは、仏壇でした。中身はありませんでした。「全て流されてしまったんだ・・・」

「あつという間に増水し、畳が浮いてくる恐怖のなかで、その方が守ろうと手を伸ばしたの、仏壇の中でした。言いようのない熱いものがこみあげてくるのを、ただ感じていました。八月二十四日未明、遠くで鳴るサイレンの音に目が覚めました。すると、次の瞬間近づいてくる音「バタバタバター！」寝室の窓を叩く轟音。子供の寝返り。テレビには「全市民避難勧告」という初めて見る文字。その轟音は、時間雨量八十七ミリという未曾有の大雨が島根県江津市を一斉に叩いてい



る音でした。自坊には続々と避難の方が集まっていたようでした。八月二十五日午前、状況を確認しようと思い、自坊近くの跡市の町へと車を走らせました。傾いている家、道路を半分になっている土砂、空気を染める粉塵。その真ん中に、懸命にスコップを振り、私のような野次馬を必死に交通整理し、流されたものを曲がった腰で

運んでいる地域の方々がいました。死ぬほど恥ずかしくなり、スコップを取りに戻りました。三日間、スコップを振る中で感じたこと。それは無論私の力ではなく、帰る場所を失った方々の力。目の輝き。ふるさとを取り戻そうとする力でした。そ

して冒頭の言葉に出会いました。スコップに、地域の方々が代々守ってきた「ふるさと」の力を感じていました。仏さまも代々守られてきたものなのでしょう。現在、一番被害が大きかった場所に立つ「美容院」が再開されました。その高く青い空には、大きく蜻蛉が飛んでいました。

第四連区門徒推進員連絡協議会実践運動研修会(報告)

山陰教区門徒推進員連絡協議会 会長 上田 克夫

例年行っている第四連区の研修会を山陰教区が担当することになり、平成二十五年十月二十五日・二十六日の二日間にあたり、ホテル六道湖を会所として開催しました。参加者は、会所の収容に限りがあり百二十名としました。

講師は、「御同朋の社会をめざす」ということをつながっていく、引き継いでいくをテーマとしました。講師には、

- 北海道教区十勝組妙覚寺 連研中央講師

北海道教区実践運動委員会 常任委員 脇谷曉融師を招聘しました。講義の要旨は、

- ①「宗制」の変更
- ②「基幹運動(門信徒会運動、同朋運動)」から「御同朋の社会をめざす運動(実践運動)」に改め、僧侶と門信徒の課題を共有し、「教団を構成する全ての人が参画(宗則)」「自他共に心豊かに生きる」とのできる社会の実現に貢献するもの」
- ③「門徒推進員要綱」から「門徒推進員規程」に改める。

教団内の法的位置、組連研開催の推進を明確にする。

組織強化(縦)から(横)の一人一人のつながりを広める。僧侶とともに運動(実践)を勧める一人であることの自覚と、門徒推進員は「資格」でなく「自覚」することである。参考とさせていただきます。

念仏の教えにであった私たちの生き方は、自分自身と向き合ってみること、社会の課題に関心を持ち、「行動・実践」真宗という道標・生き方を活かしていくことである。

講義に続いて、各教区から活動報告と「話し合い法座」は九班で行い、法友との出会いは新しい知恵の交換となり「めざめ」ともなりました。

合掌





ドレミファ組

さらなる活動の拡がりを目指して

浜田組長 市野 不 盡

組画再編に伴い、旧浜田組十六ヶ寺と旧福屋組八ヶ寺にて新浜田組が発足しました。組織・予算などすべてがゼロからのスタートとなりました。各教化団体も同様に新組の発足に合わせ、新たな歩みを始めました。一年目は、旧組それぞれの取り組み方の違いがあり、体制づくりの年となりました。二年目となる今年度は、組内の僧侶・門信徒のみなさまのご協力をいただいて、組・教化団体とも順調に活動を続けています。

「御同朋の社会を目指す運動（実践運動）」も、昨年は趣旨の徹底が中心でしたが、今年は重点目標である「日常の寺院活動・地域と寺院とのつながりを大切にする」の具体的な活動に向けて取り組みを進めています。

過疎化・高齢化は、当地でも例外ではありません。「家」の崩壊が進み、伝道教化活動の見直しが迫られています。その中で、今一度原点に立ちかえることを目指しました。各寺院の法座活動においては、所属寺の枠を超えて、近くのお寺で法縁をむす

んでもらうよう『組報』等を通して勧めています。また、活動を門信徒以外の方にも広めていくため、組や教化団体の研修会等の行事を、可能な限り一般公開として開催しています。さらに、お寺へのお参り・行事への参加を勧めることばかりを考えるのではなく、各家庭の仏事等におけるつながりを大切にし、苦悩に寄り添い、いのちの尊さに目覚めることのできる法要儀式をつとめるよう、運動推進をする中であらためて確認しました。

基幹運動の反省の中に、活動が宗門の内に留まってしまうことがあげられていました。バラバラになりがちな教化団体活動の連携も必要です。今後は広報活動を充実し、組をあげて「家」から「個人」へのアプローチを模索し、重ねて宗門外への活動の拡がりを目指したいと思っています。

最後になりましたが、今夏の豪雨災害の際には、多くのみなさまのご支援をありがとうございました。心よりお礼を申し上げます。

編集後記

教区報『さんいん』二二七号をお届けいたします。ご覧ください▼教区内の二〇三年度事業は過密スケジュールのなか例年どおり消化されつつあります。二〇三二(平成二四)年四月から始まった「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)が推進され、教区・組においては重点プロジェクト基本計画にもとづいて実践目標も立てられました。向こう三年間の試行期間である中、戸惑いや混乱も生じていますが組長・教区委員を中心に各目標達成に向けて僧侶・門信徒と共に活動中です▼本山における親鸞聖人七五〇回大遠忌法要も終了し、二〇二四年六月には法統継承式が執行されます。宗門内外に向けて浄土真宗のみ教えの伝統が次代へと継承される儀式でもあります▼み教えの伝統が継承されてきたのは本山だけではなく、ここ山陰教区内でもご門徒の家々でみ教えが後世に継承されてきた伝統がありました。今ではこの継承も難しくなりつつあります▼困難な状況での実践運動は、み教えを拠りどころとした僧侶・門信徒が共に後世にみ教えの伝統を伝えていく運動であると思えます。(T)

『信頼からコミュニケーション』

団体参拝のご計画はお気軽にご相談ください。

株式会社近畿日本ツーリスト中国四国 山陰支店
〒690-0887 松江市殿町517 ☎(0852)22-4893